

松戸市総合計画後期基本計画策定における
現状把握のための
市民意識調査実施結果
(報告書)

平成22年3月

松 戸 市

目次

1	調査の概要	1
1-1	調査の目的	3
1-2	調査の設計	3
1-3	調査の枠組み	3
1-4	回収状況	10
1-5	これまでの調査状況	10
2	市民意識調査-単純集計結果	11
3	市民意識調査の回答者の特性	29
3-1	性別	31
3-2	年齢	31
3-3	地区別	32
3-4	就労状況	32
3-5	居住年数	33
3-6	出身地	34
3-7	家族構成	34
3-8	興味・関心（複数回答）	35
3-9	日常的な行動範囲	36
3-10	主な交通手段（複数回答）	36
3-11	行政情報の入手手段（複数回答）	37
3-12	行政サービスに対する満足度	37
4	市民意識調査に基づく「指標の現状（値）」	39
4-1	指標の現状（値）	41
	第1節 連携型地域社会の形成	43
	第1項 市民と行政の協働を推進します	43
	第2項 一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会をつくります	48
	第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現	57
	第1項 健康に暮らすことができるようにします	57
	第2項 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにします	66
	第3項 安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにします	69

第3節 次代を育む文化・教育環境の創造	71
第2項 生涯学習やスポーツを楽しむことができますようにします	71
第3項 国際的な広い視野と平和を愛する心が生まれ、 松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします	83
第4節 安全で快適な生活環境の実現	92
第1項 災害に対する不安を減らすようにします	92
第5項 犯罪や事故のない安全で快適な市民社会をつくります	95
第6項 緑と花に親しむことができますようにします	98
第5節 魅力ある都市空間の形成と産業の振興	103
第1項 地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにします	103
第3項 ゆとりを感じるまちに住むことができますようにします	109
第5項 安全な河川に整備し、きれいな水とふれあえるようにします	114
第6節 都市経営の視点に立った行財政運営	117
第1項 市民ニーズに基づく行政経営を行います	117
4-2 平成21年度指標値一覧	131
4-3 松戸市に対する意見・要望（自由記載）	135
 添付資料：市民意識調査票	 169

1 調査の概要

1-1 調査の目的

松戸市では、平成 10 年度に策定した平成 32 年度までの今後の将来像を示す総合計画のうち、前期基本計画の期間が平成 22 年度で満了するため、現在、「後期基本計画」(計画期間:平成 23~32 年度)を策定しています。

今回の調査は、後期基本計画に設定する、めざそう値の現状を把握することを目的に実施したものです。

1-2 調査の設計

・ 1) 調査の対象

松戸市に居住する 20 歳以上の男女個人

(母数 392,985 人 平成 22 年 1 月 5 日現在の住民基本台帳による)

・ 2) サンプル数

3,000 人

・ 3) 抽出方法

性別、年齢、支所管区による層化無作為抽出

・ 4) 調査の方法

郵送調査法

・ 5) 調査の期間

平成 22 年 1 月 28 日~2 月 12 日(16 日間)

1-3 調査の枠組み

調査の前提となる、後期基本計画「施策展開の方向」の「めざしたい将来像」「指標」および今回の調査対象項目は次のとおりです。

なお、「めざしたい将来像」は、後期基本計画が現在策定中であるため、まつど未来づくり会議から提言された「目指したい姿の宣言文」を記載しています。また、その他の部分につきましても、後期基本計画の策定の状況により、変更になる可能性があります。

注釈1：めざしたい将来像は「松戸の良さ、強み(潜在力)を活かすことにより、実現したい社会の姿」を表します

2：主な指標は、「めざしたい将来像にどれだけ近づいたかを計るための尺度」を表します

節	項	政策名	めざしたい将来像	主な指標	調査対象
1	1	市民と行政の協働を推進します	「市民の自立」「市民や事業者などと行政の対等な関係」をめざす協働のまちづくりを推進するため、地域拠点の機能（情報の開示と共有、組織の新たな連携など）を高め、地域活動（町会・自治会活動、地区社会福祉協議会の活動）、NPO活動、ボランティア活動のそれぞれの活性化や連携を通して、安全・安心な豊かで活力のある郷土愛に満ちた誇れる”ふるさとまつど”を実現する	市民活動（地域活動、NPO活動、ボランティア活動など）に参加している人の割合	○
				市が協働する事業件数	
				NPO 法人の数	
	2	一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会をつくります	松戸に住まう全ての人々が認め合い、関わり合える平等で差別の無い温かな地域社会に向けて、喜ばれる（心のこもった）活動・対話・教育を通して、自分たちで創り上げる安心できる豊かなまちを実現する	身の回りで人権が守られていると思っている人の割合	○
				最近、人権や差別について話し合いをした人の割合	○
				固定的性別役割分担を支持しない人の割合	○
2	1	健康に暮らすことができるようにします	自らの健康に関心をもち社会参加することを通して、一人一人が目的を持った生きがいのある暮らしを生み出す	生きがい感を持っている人の割合	○
				本人が健康であると思う人の割合	○
				健康づくりに関する講座やイベントへの参加者数	
				多様な世代と交流する機会のある人の割合	○
2	病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにします	どう生きたいか、どう老いるかを考えて、個人の尊厳を保ちながら生きるために、誰もが不安なく自立した生活を送れるようにする	日常生活に対して不安を感じていない人の割合	○	

節	項	政策名	めざしたい将来像	主な指標	調査対象
2	3	安心して子どもを生き、健やかに育てることができるようにします	子どもの笑顔があふれる街にするために、生活スタイルにあわせて選択できる様々なサービスや地域ぐるみで支援する環境を整え、子育てできる松戸を実現する	子育ての満足度	○
				合計特殊出生率	
	4	市立病院として高度で良質な医療を提供します	地域の医療機関や社会福祉サービス、市民ボランティアと連携し、役割を分担し、地域医療の核として、高度で良質な医療を提供する	患者満足度	
				経常収支比率	
3	1	子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験をえられるようにします	子どもたちが自立した人間になるために、地域の力と体験を活かした家庭、学校、地域の新しい関係を通して、他人を思いやれる人間として成長できる真の生きる力を引き出す	目標をもって学校生活をしている児童生徒の割合	
				授業が楽しいと感じている児童生徒の割合	
2	2	生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにします	生涯を通じて学び続ける楽しさを味わうために、自主的に参加しやすい場所や機会を増やすことで、年齢に関わらず心身ともにいきいきと暮らせるようにする	学習活動を行っている市民の割合	○
				学習活動の成果を地域社会で活かしている市民の割合	○
				スポーツを行なっている市民の割合	○
3	3	国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします	誰もが誇りのもてる”ふるさと松戸”に向けて、皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、松戸を愛する人を増やす	史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度	○
				文化・芸術に親しむ市民の割合	○
				外国籍市民と交流している人の割合	○
				世界平和都市宣言の認知度	
4	1	災害に対する不安を減らすようにします	防災意識を高めることを通して、自助・共助・公助の体制を推進することで、災害に強く命を大切にする社会を実現する	災害に対して自ら対策を講じている人の割合	○
	2	火災等の災害から市民生活を守ります	行政・市民・地域や様々な分野の人々が協力し、設備を拡充することで、火災等による被害がなく、安全・安心なまちを実現する	出火率（火災件数/対人口1万人）	

節	項	政策名	めざしたい将来像	主な指標	調査対象
4	3	救急救命が必要になった市民の生命をつなぎます	救急医療機関の受け入れ体制の充実と市民の救命情報・知識を向上させ、即応した救命ネットワークを構築することで、多くの市民の生命を守る	心肺停止傷病者の1ヶ月生存率 (1ヶ月生存者数/心肺蘇生実施者数)	
				救急入電から医療機関に収容するまでに要する時間	
	4	環境にやさしい地域社会をつくりまします	行政・市民一人ひとり、日常生活における省エネルギーを加速させ、新エネルギー導入に努めて、低炭素社会の基盤を作ることで、地球温暖化防止を推進する	温室効果ガス削減量(CO ₂ 換算)	
				廃棄物の最終処分量	
	5	犯罪や事故のない安全で快適な市民社会をつくりまします	犯罪や事故のない安全・安心のまちづくりに向けて、地域の見守りと自らの責任により、お互いに助け合える社会を実現する	刑法犯認知件数(対1千人)	
				防犯用品貸与団体数	
				交通事故の発生件数(対1千人)	
				消費者トラブルに巻き込まれた人の割合	○
	6	緑と花に親しむことができるようにします	生きものやみどりとともに暮らすために、みどりの市民力を推進することで、人と自然を大切にしたいの心をもって、豊かで潤いのある生活を実現する	緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合	○
				里やまボランティア活動団体数	
				花いっぱい運動活動団体数	
				身近で、緑が守られ、増えていると感じる人の割合	○
5	1	地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにします	若者に魅力ある松戸のまちづくりに向けて、産・学・官・民・年代間の連携を継続的な取組にして、今ある資源を活かした、新しい松戸らしい地域産業を生み出す	快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合	○
				商業の年間商品販売額	
				製造品出荷額	
				松戸の良さを伝えるために取り組んでいる市民の割合	○
	主要観光スポットの観光客数				
	2	個性を活かし、能力を発揮して働くことができるようにします	若者と熟年者の連携による松戸市の活性化のために、市内で誰でも働きやすい環境をつくることによって、松戸市に住みたくなることを実現する	新規求人倍率(松戸市内)	
65歳以上の完全失業率					
20歳代の就業率					
障害者法定雇用率を達成している企業の割合(松戸市内)					

節	項	政策名	めざしたい将来像	主な指標	調査対象	
5	3	ゆとりを感じるま ちに住むことがで きるようにします	ふるさと松戸の共有化のために、産・ 学・官・民が連携することで、文化的で 自然豊かなまちを実現する	安心やゆとりを感じている人の 割合	○	
				地区計画策定面積		
	4	誰もが安心してス ムーズに移動でき るようにします	人が安心して歩けるまちづくりに向け て、人と自然にやさしい道を整備するこ とで、長く住み続けられるまちを実現す る	鉄道駅のバリアフリー化率(ワン ルート整備率)		
				鉄道の混雑率(緩行電車)		
				鉄道の混雑率(快速電車)		
	5	安全な河川に整備 し、きれいな水とふ れあえるようにし ます	清流とゆたかな自然環境の保持に向け て、川に親しめるような整備をすること で、市民の憩いの場を実現する	緑地・河川などの自然環境に満足 している人の割合(再掲)	○	
				BOD(75%)値(国分川水系)		
				BOD(75%)値(坂川水系)		
				下水道利用率(下水道利用者数/ 市内人口)		
	6	いつでも安心して 水道水が使えるよ うにします	いつでも水道水が使えるために、災害に 強い施設を整備することで、引き続き、 安定した飲み水を実現していく	水道事業に満足している人の割 合		
	6	1	市民ニーズに基づ く行政経営を行い ます	50万市民の満足度向上のために、継続的 な対話を経た力強い連携による政策の 仕組みづくりをすることによって、経営 基盤が強化され、安心して住みやすいま ちを実現する	住み続けたいと思う人の割合	○
					行政サービスの改善度	○
行政情報入手手段に係るホーム ページの割合					○	
インターネットを利用している 人の割合					○	
財政力指数						
2	財源、財産を適正に 管理し、配分します	市民ニーズに弾力的に応えられる活力 に満ちた松戸市となるために、将来を見 越した柔軟かつ大胆な発想で歳入・歳出 とも見直すとともに、社会資源の有効活 用を図ることを通して、発展性のある健 全な財政運営を実現する	経常収支比率			
			自主財源比率			

後期基本計画に掲載予定の「指標」のうち、市民意識調査により把握する「指標」について、設問化しました。設問化にあたっては、前期基本計画から継続している「指標」については、そのまま継続しています。その際、回答者の立場を「個人」「地域」「社会」の3つに、回答者の意図を「態度(認知・評価・関心)」「行動」「意向」の5つに分類し、設問を作成しました。

設問化の方向は次のとおりです。

節	項	主な指標	立場	意図
1	1	地域活動に参加している人の割合	社会	行動
	2	身の周りで人権が守られていると思っている人の割合	社会	態度(認知)
	2	最近、人権や差別について話し合いをした人の割合	個人	行動
	3	固定的性別役割分担を支持しない人の割合	個人	態度(認知)
	3	女性の就業割合		
2	1	生きがい感を持っている人の割合	個人	態度(認知)
	1	本人が健康であると思う人の割合	個人	態度(認知)
	1	多様な世代と交流する機会のある人の割合	地域	態度(評価)
	2	日常生活に対して不安を感じていない人の割合	個人	態度(認知)
	3	子育ての満足度	個人	態度(認知)
3	2	学習活動を行っている市民の割合	個人	行動
	2	学習活動の成果を地域社会で活かしている市民の割合	個人	態度(認知)
	2	スポーツを行っている市民の割合	個人	行動
	3	史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度	地域	態度(評価)
	3	文化・芸術に親しむ市民の割合	個人	行動
	3	外国籍市民と交流している人の割合	個人	行動
4	1	災害に対して自ら対策を講じている人の割合	個人	行動
	5	消費者トラブルに巻き込まれた人の割合	個人	行動
	6	緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合	地域	態度(評価)
	6	身近で、緑が守られ、増えていると感じる人の割合	地域	態度(評価)
5	1	快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合	地域	態度(評価)
	1	松戸の良さを伝えるために取り組んでいる市民の割合	個人	行動
	3	安心やゆとりを感じている人の割合	地域	態度(評価)
	5	緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合(再掲)	地域	態度(評価)
6	1	住み続けたいと思う人の割合	個人	意向
	1	行政サービスの改善度	個人	態度(評価)
	1	行政情報入手手段に係るホームページの割合		
	1	インターネットを利用している人の割合	個人	行動

さらに、説明変数として属性(「基本的事項」「現在の指向」「行政への関心」)を付け加え、作成しました。

市民意識調査の枠組みは、次のようになります。



1-4 回収状況

サンプル数	3,000人
有効回答数	1,524人
有効回収率	50.8%

・【参考】単純集計結果の標本誤差（信頼度95%）

回答の比率(P) 回答数(n)	10%又は 90%	20%又は 80%	30%又は 70%	40%又は 60%	50%
1,524	± 1.5%	± 2.0%	± 2.3%	± 2.5%	± 2.5%
1,400	± 1.6%	± 2.1%	± 2.4%	± 2.6%	± 2.6%
1,200	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.8%
1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.8%	± 3.0%	± 3.1%
800	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.4%	± 3.5%
600	± 2.4%	± 3.2%	± 3.7%	± 3.9%	± 4.0%
400	± 2.9%	± 3.9%	± 4.5%	± 4.8%	± 4.9%
200	± 4.2%	± 5.5%	± 6.3%	± 6.8%	± 6.9%
100	± 5.9%	± 7.8%	± 9.0%	± 9.6%	± 9.8%

<標本誤差の算出方法>

$$b = 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

※ b = 標本誤差・N = 母集団数・n = 回答者数・P = 回答の比率

<表の見方>

「今回の単純集計結果におけるある設問の選択肢の回答比率が50%である場合」

その回答比率の誤差範囲は、最高でも±2.7%以内である。

※上記の標本誤差の表は、単純無作為抽出を前提としたものである。

1-5 これまでの調査状況

調査年度	調査の期間	サンプル数	有効 回答数	有効 回収率	データの取り扱い
平成13年度	平成13年10月30日～11月13日(14日間)	3,000人	1,612人	53.7%	平成13年度起点値
平成16年度	平成16年11月19日～12月31日(42日間)	3,000人	1,144人	38.1%	平成16年度中間値
平成18年度	平成18年11月29日～12月12日(14日間)	3,000人	1,607人	53.6%	平成18年度中間値
平成20年度	平成20年6月16日～6月30日(15日間)	3,000人	1,407人	46.9%	※平成19年度実績値
平成21年度	平成22年1月28日～2月12日(16日間)	3,000人	1,524人	50.8%	平成21年度実績値

※ 平成20年度は、平成19年度の実績を測定するため、平成20年度に入ってから調査を実施しました。